

「庄内町立小中学校再編整備実施計画」立川地域意見交換会 狩川地区

日時：令和7年7月29日 午後7時～午後8時10分

場所：庄内町狩川まちづくりセンター 3階ミニホール

<参加者>

住民等：4名

教育委員会：9名

佐藤教育長、齊藤雅子教育委員、清野教育課長、
菅原課長補佐兼学校再編整備室室長、本間指導主事、池田教育総務係長、
長谷部学校教育係長、齋藤教育施設係長、山科学校再編整備室主事

<意見交換>

発言者	男性（烏町）
パブリックコメントが周知されていなかったと感じる。地域説明会を行ったのは教育委員会定例会で決まった後であり、もっと丁寧に進めてほしかった。今後全町に関わる時は丁寧な対応をとるべきだと思う。焦って行うのはなぜなのか、理由を知りたい。議会でも唐突だという議論があったと聞いている。段階を踏んで時間に余裕を持って決めてほしかった。	
回答者	課長
3月の議会定例会でもご意見を頂戴しました。パブリックコメントについては地域に説明をすることなく行ったことは反省しています。急いだ理由として、小学校建設予定地は優良な農地であり宅地にするには様々な法的手続きが必要となります。令和8年度まで県営かんがい排水事業が実施されており、整備が完了し完了広告されると8年間は農地を転用できなくなります。また、その受益地を計画から除外する手続きは1年半ほどの期間を有します。響ホール北側が有力地とされたとき、5月には手続きをする必要がありました。3月の議会定例会が終わってから地権者・耕作者への説明を行い、4月には関係者から合意を得て県と最上川土地改良区に申請を行っております。以上のように、時間的な余裕がなかったこと、また決定してからでなければ動けなかったこと、そのために丁寧さが欠けてしまった。不信感を与えてしまったと感じています。	

発言者	男性（上幅）
1校案に反対ではないのだが、場所の決め方がどうにもわからない。響ホールができた時から、なにか密約でもあったのではないかと響ホール北側になった理由を知りたい。他にも候補地になるような土地があったのになぜなのか。行政サイドのほうで決めたのか。委員のほうで決めたのか。なぜ候補地として響ホール北側が出てきたのか。	
回答者	課長補佐
用地選定のために庁内選定会議を実施しましたが、初めの会議では12か所候補地として上	

がっていました。その後評価基準により4か所に絞り込んでいきました。また必要な面積も選定の基準の一つで、35,000～40,000㎡を想定していました。庁内選定会議で各課より候補地をあげてもらった中に響ホール北側がありました。他にも廻館や余目新田、中谷地、西小野方、堤新田地内、二小周辺、狩川地内、四小周辺などの候補地がありました。

発言者 男性（上幅）

候補地について、評価点数が同じなのでどちらも選んでもよい。優良農地である響ホール北側を突然候補地としたのかがわからない。選択肢がいっぱいあった中でなぜここになったのか知りたい。ピンポイントで響ホール北側になったのが気になる。

回答者 課長補佐

ピンポイントで決まったわけではありません。庁内選定会議で12か所の候補地を募り、そこから絞り込んで、最終的に響ホール北側になったということです。

発言者 男性（狩川）

響ホール北側の地権者は何名だったのか。

回答者 課長補佐

地権者が8名、耕作者が4名となります。

発言者 男性（狩川）

異論なく賛成だったのか。部落の役員会で小学校が移転するのはしょうがない。なぜ響ホール北側だったのかという話になり返答が出来なかった。

回答者 課長補佐

まず現時点では用地交渉までは行っておらず、整備計画に同意を頂いたという形です。現在は合意を得て法的な手続きを進めている状況です。説明会では計画に反対という意見はありませんでしたが、排水面で心配される声はありました。

発言者 男性（烏町）

今後の跡地利用について関心がある。立川中学校は最近できたばかり。今後の活用について、風来風流で使えるようになるのか。町として利活用の方法が考えられているのか。

回答者 課長補佐

学校の統合を優先してきたので跡地利用は検討していませんでした。小学校や中学校を今後どのように活用していくかは、教育課だけでなく庁内全体で考えていく必要があると考えています。立川地域の活性化を図るために、どのような活用方法が良いか今後検討していきたいと思います。

発言者 男性（烏町）

遊佐町に狩川の自治会長会で視察に行ったことがあります。未来志向で考えていただければと思う。

発言者 男性（上幅）

利活用について、建物が残っている。解体等それ相応の金額がかかるのも知っている。有料

老人ホームでの活用などはどうか。	
回答者	課長補佐
色々な活用方法が考えられると思います。参考となるご意見ありがとうございます。	
発言者	男性（上幅）
今回の意見交換会について、なぜ余目地域がないのか。	
回答者	課長補佐
アンケートの「統合について賛成・概ね賛成・どちらとも言えない」という問いに対して、余目地域は約8割の方が賛成・概ね賛同でした。一方、立川地域は約6割と説明が不十分だと考え、まず立川地域での意見交換会を先にということで設定しました。	
発言者	男性（上幅）
人口で競争したら余目地域に負ける。自然環境は余目地域が少ない。立川地域に学校を残すのはベターと個人的に考える。人口比ではなく逆転の発想ではダメなのか。	
回答者	教育長
私の経験上、小中学校が近くにあることで、こどもの成長に繋がったと感ずることがありました。朝の小中学校での挨拶運動、生徒会活動、授業に関しても小中学校の先生が教えに行くことができたり、子供たちが中学校の授業を受けたりとモデルを見ることは効果があったと思います。行事も同じ。壮行式、体育祭・文化祭など、大きなモデルを描きながら小学校生活ができる。先生も児童の様子を共有できるだけでなく、話し合う場もできる。立川は小学校・中学校が近いのでそのような有利さがありました。今後の統合についても、小学校と中学校が近いという利点を生かしたいと考えています。現在小学校は5つありそれぞれ特色があります。地域の方のご協力を得まして教育活動に生かしていきたい。自然環境の話についても、余目の子供たちが清川八郎記念館や北楯大堰などを含め色々なことを取り入れ学べるよう、教育課程の編成をしていきたいと考えています。	
発言者	男性（上幅）
小学生・中学生と触れ合うのは楽しい。風来風流祭りは800名近くお越しいただいた。遠くなると今までと同じレベルでの付き合いはなくなる。大人が子供から育ててもらっているところもある。1校案について反対しないといったものの、我々としても重い。子供たちが自分たちの足で移動できるのはたかが知れている。余目以外の子供は歩くのではなくスクールバス。どこに行っても同じ。町の中でスクールバスを運営する会社はできないのか。全部委託するという考えがあるから金額が高くなる。そうなればここまで金額が高くないのでは？ここまで高いのかも一度計算してほしい。震災などがあれば直営だと学校にしているバスに乗ればよい。バスについてはもう少し考えてほしい。	
回答者	課長
27日の祭りは私も参加しました。子供たちが祭りを盛り上げてくれたなと感じました。学校がなくなっても地域で育てていただきたいし、全ての学区で同じ問題を抱えています。大人と子供がかかわる機会を今後も作っていただきたい。 バスについて、かつては直営で職員も雇っていました。しかし、これまでの大きな流れの中で、委託できるものは委託しましょうという考えで進めてきました。まちづくりセンターも同	

じです。現在スクールバスで一般町民も混乗しています。地域の皆様の足になれるように交通政策を考えていかないといけないと思っています。乗車範囲については、これからの検討という事でまだ決まっておられません。

回答者 **学校教育係長**

立川小中学校跡地に小学校を建設した場合、狩川地区小学校の徒歩通学はそのまま。現在、冬期間バス通学もそのまま。第四学区の一部冬期間のみバス通学で夏は徒歩。その他はすべてバス通学となります。

響ホール北側の場合、立川、第四学区は夏冬バス通学となります。通学路などは決まっていないので想定となりますが、第三学区もバス通学として考えています。第一学区は夏は徒歩、冬期間は一部バス通学。第二学区は夏冬徒歩で一部夏冬もバス通学。そのほかは冬期間のみバス通学と考えました。徒歩通学は半径2キロから3キロで試算しました。あくまでも現在の試算です。これから通学路など登下校についても、統合準備委員会で保護者の意見を伺いつつ検討していくことになります。

発言者 **男性（上幅）**

バス通学について様々な親の意見がある。熊の問題など、全面スクールバスが良いが、予算もかかるためどのようにとらえるのかは皆さんの考えだと思う。

回答者 **学校教育係長**

文部科学省として示されているのは4キロです。小学生は4キロ、中学生6キロ程度とされていますが、地理的状況を踏まえて市町村で決めることとなっています。通学路が決まっていないので、道のりでの状況は考えていません。これから学校とスクールバスの範囲を考えていくことになります。